

## 神奈川県で採集された日本新産を含む 4 種の帰化植物

勝山輝男

Teruo Katsuyama: Four Naturalized Plants Collected from Kanagawa Prefecture,  
Include Two New Records in Japan

神奈川県植物誌調査会の平川恵美子氏が川崎市麻生区でカヤツリグサ科 (Cyperaceae) スゲ属 (*Carex* L.) とムラサキ科 (Boraginaceae) のこれまでに報告されていない帰化植物を採集された。海外の植物誌などを調べたところ、それぞれ *Carex brevior* (Dewey) Mack., *Anchusa arvensis* (L.) M. Bieb. と判明した。それぞれ和名をヒレミヤガミスゲ、アレチウシノシタグサと新称し報告する。また、アメリカキュウリグサ *Plagiobothrys stipitatus* (Greene) I. M. Johnst. (ムラサキ科 Boraginaceae) については田中ほか (1997) で、ミナミハマアカザ *Atriplex suberecta* I. Verd. (アカザ科 Chenopodiaceae) については勝山 (1999) で学名と和名のみを報告したが、詳細については触れていない。そこでこの機会にあわせて報告したい。いずれも、一時的に発生したものであるが、日本での最初の野生化の記録である。

### 1. ヒレミヤガミスゲ (新称) (図1)

*Carex brevior* (Dewey) Mack., Amer. Midl. Nat., 4: 235 (1915); *Carex straminea* Willd. var. *brevior* Dewey, Amer. J. Sci., 11: 158 (1826)

川崎市麻生区白山の市街地の草地でカヤツリグサ科スゲ属ヤガミスゲ節 (Sect. *Ovales* Kunth) に属す植物が採集された。Mackenzie (1931-1935), Cronquist *et al.* (1977), Gleason & Cronquist (1991), Holmgren (1998), Kükenthal (1909), Abrams (1940) などの記述や図から北アメリカ原産の *C. brevior* と判明した (図1)。念のために国立科学博物館に収められている北アメリカ産の *C. brevior* の標本とも比較したが、果胞の性質などの細部も一致した。*C. brevior* は北アメリカの大西洋岸から太平洋岸まで広く分布するスゲ属植物である。新興住宅地の路傍の草地で採集されたことから考えると、緑化用の種子に混入して持ち込まれたものと推定される。以下に採集された標本に基づくヒレミヤガミスゲの特徴を記す。

多年草。根茎は太く短い。高さ約 50cm。葉は花茎よりも短く、幅 2~3mm。小穂は雌雄性 (上部に雌花部、基部に雄花部がある) で長さ 5~10mm、柄はなく、3~5個がやや密集してつく。苞は小穂よりも短く、最下のものにはときに小穂よりもやや長い葉状の苞がある。鱗片は狭卵形~披針形で鋭頭、果胞と同長またはやや長く、幅は明らかに果胞よりも狭く、褐色を帯び、中肋は緑色。果胞は卵形~広卵形、長さ約 3.5mm、幅約 2.5mm、扁平で、縁は幅

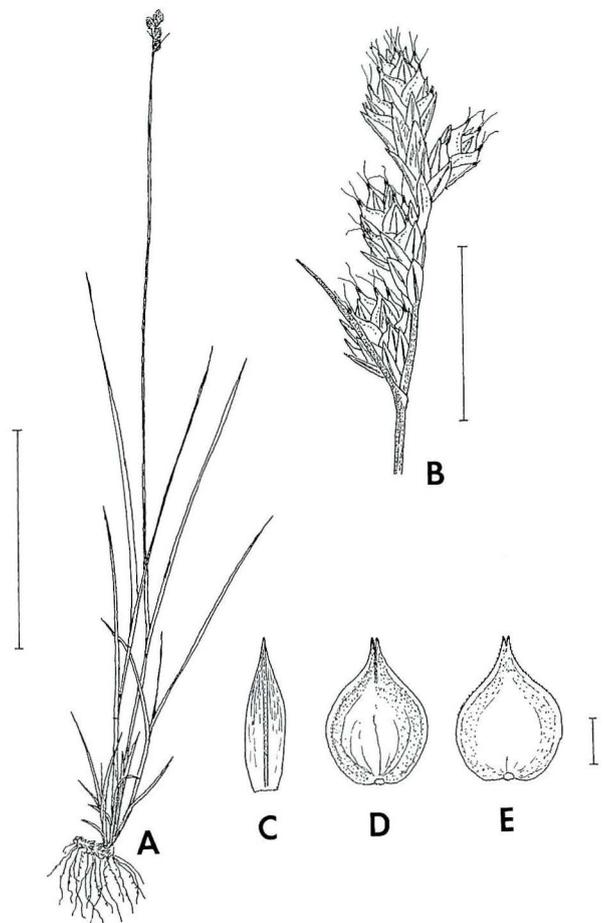


図1. ヒレミヤガミスゲ *Carex brevior* A: 全草 スケールは 10cm, B: 小穂 スケールは 1cm, C: 雌花の鱗片, D: 果胞 (背面), E: 果胞 (腹面), C, D, E のスケールは 1mm.

広い翼となり、翼の縁はざらつき、嘴はやや長く、先は2歯となり、背面は数脈が見え、腹面は無脈。柱頭は2。そう果はレンズ状で、長さ1.8mm、幅1.3mm。

標本：川崎市麻生区白山5丁目 May, 15, 1999 平川恵美子 KPM-NA0115698.

## 2. アレチウシノシタグサ (新称) (図2)

*Anchusa arvensis* (L.) M. Bieb., Fl. Taur.-Cauc., 1: 123 (1808); *Lycopsis arvensis* L., Sp. Pl. 139 (1753)

川崎市麻生区黒川の畑地で不明のムラサキ科植物が採集された。全体の形はワルタビラコ *Amsinchia lycopsoides* Lehm. に似ているが、花冠が青色で、分果の形が異なっている。帰化によるものと考え、ヨーロッパや北アメリカの植物誌にあたってみたところ、Tutin *et al.* (1972), Gleason & Cronquist (1991), Holmgren (1998), Abrams (1951), Britton & Brown (1970), Clapham *et al.* (1987), Pignatti (1982) の記述からヨーロッパ原産で北アメリカに帰化している *Anchusa arvensis* と判明した。念のために国立科学博物館に収められているヨーロッパ産の *A. arvensis* の標本との比較も行ったが、同じものであると判断した。ウシノシタグサ属 (*Anchusa* L.) はユーラシ

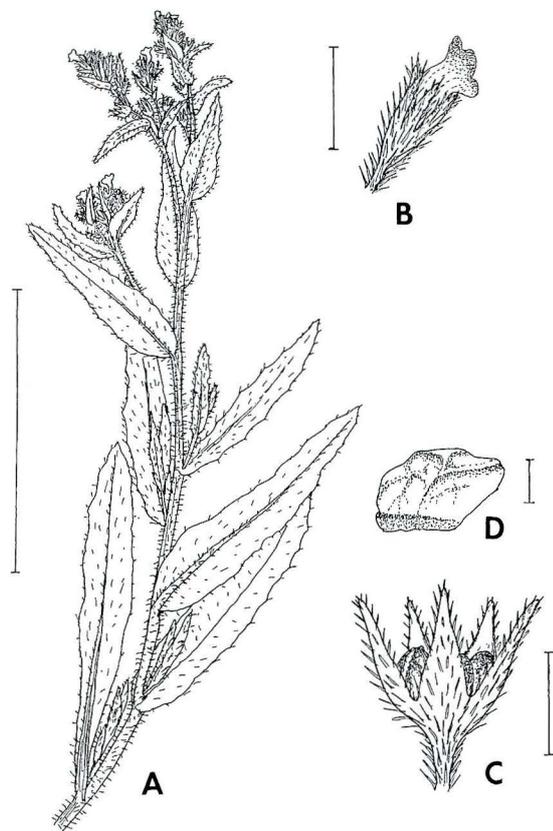


図2. アレチウシノシタグサ *Anchusa arvensis* A: 植物体 スケールは10cm, B: 花, C: 果時の萼, B, Cのスケールは5mm, D: 分果 スケールは1mm.

ア大陸に約50種があり、日本ではウシノシタグサ *A. azurea* Mill. が古くから栽培されている。*A. arvensis* は花が小さいので、栽培目的で持ち込まれたことはないようである。以下に採集された標本に基づくアレチウシノシタグサの特徴を記す。

1年草。全体に基部が膨れた粗い毛を密生する。茎は直立し、高さ約40cm。葉は互生し、柄はなく、基部はやや茎を抱き、広線形または披針形で波状縁、長さ5~10cm、幅1~2cm。花序は茎頂および上部の葉腋に数個つけ、苞葉がある。花柄は花時には短く、果時には長さ10mm近くなる。萼は基部近くまで深く5裂し、花時には長さ約5mm、果時には7~8mmになり、粗毛を密生する。萼歯は5個、線状披針形で鋭頭。花冠は青色、筒状で先は5裂し、長さ4~7mm、筒部の半ばで屈曲する。雄しべや雌しべは花冠内部にあり、突き出さない。分果は歪んだ卵形で、高さ1.5~2mm、長さ約3mm、背面は円く、不規則なしわがある。

標本：川崎市麻生区黒川 May, 8, 1999 平川恵美子 KPM-NA0115697.

## 3. アメリカキュウリグサ (図3)

*Plagiobothrys stipitatus* (Greene) I. M. Johnst., Contr. Gray Herb., 68: 77 (1923); *Allocarya stipitata* Greene, Pittonia, 1: 19 (1887)

神奈川県立生命の星・地球博物館のムラサキ科植物の標本を整理していたところ、ワルタビラコ

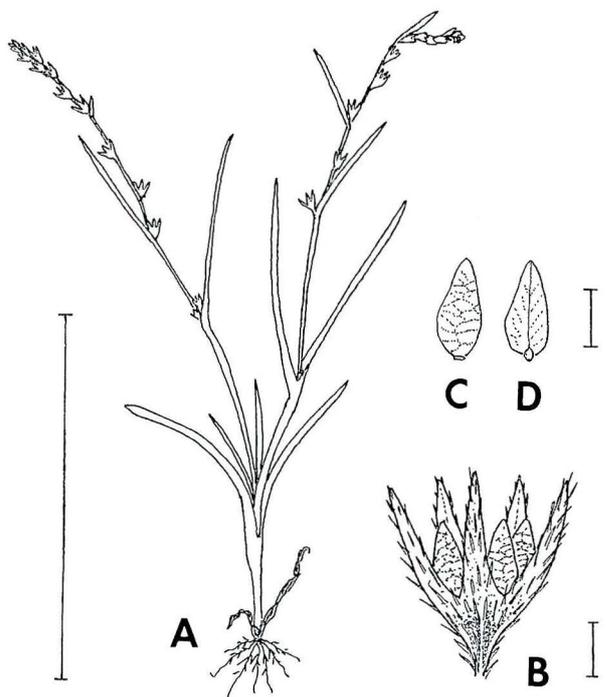


図3. アメリカキュウリグサ *Plagiobothrys stipitatus* A: 全草 スケールは5cm, B: 果時の萼, C: 分果 (背面), D: 分果 (腹面), B, C, Dのスケールは1mm.

*Amsinchia lycopsoides* Lehm. の標本の束の中から、小崎昭則氏が川崎市川崎区東扇島で1988年に採集した未知のムラサキ科植物を見出した。Cronquist *et al.* (1984) や Abrams (1951) の記述や図より、北アメリカの太平洋岸に分布する *P. stipitatus* と判断した。一見するとキュウリグサに似ており、和名はアメリカキュウリグサとされた (田中ほか, 1997)。 *Plagiobothrys* Fischer & C. Meyer は南北アメリカに約50種があり、北アメリカでは太平洋側に多くの種類がある。以下に標本に基づいたアメリカキュウリグサの特徴を記す。

茎は直立または斜上し、高さ10cm程度。茎の上部には粗毛を密生するが、基部に近づくにつれてほとんど無毛となる。葉は対生し、柄はなく、線形で、基部でやや幅が広くなり、長さ1~3cm、幅1~2mm、縁にのみ粗毛がある。卷散花序は、下部では一つおきに苞葉があり、上部では苞葉がない。花はほとんど柄がなく、長さ2~3mm。萼は基部近くまで5裂し、花時に長さ約2.5mm、果時に長さ4~5mm、外面には粗毛があり、裂片は花時に長さ約1.5mm、果時には3mmほどになる。標本からは花冠の色は不明であるが、長さ約2.5mm。分果は長卵形で、長さ2mm、幅0.8mm、基部やや腹面より着点があり、背面の上部から腹面の着点まで竜骨状に肥厚し、表面にははっきりとした皺状の模様がある。

標本：川崎市川崎区東扇島 May, 9, 1988 小崎昭則 KPM-NA1103978.

#### 4. ミナミハマアカザ (図4)

*Atriplex suberecta* I. Verd., in Britten *et al.*, *Botharia*, 6: 418(1954)

神奈川県座間市小池東原の畑地で不明のアカザ科植物が採集された。花が単性で果実は2枚の苞葉につつまれているのでハマアカザ属 (*Atriplex* L.) と知れた。花は葉腋に束生し、日本には該当するものがない。採集地付近は牛の肥育を行なっている畜産農家が多く、輸入牧草に随伴して侵入したと思われる帰化植物が多い。そこでヨーロッパや北アメリカの植物誌を調べたが、果実を包む苞の形や大きさが一致するものがなかった。国立科学博物館のアカザ科の未同定植物の束を調べたところ、ハワイで採集された同じ植物の標本を見出した。そこでハワイの植物誌 (Wagner *et al.*, 1990) にあたったところ南アフリカやオーストラリア原産の *A. suberecta* と判明した。原記載 (Britten *et al.*, 1954) やそこに書かれている図と座間市産の標本の形態はよく一致した。和名は勝山 (1999) によりミナミハマアカザとされた。採集された標本をもとにミナミハマアカザの特徴を記す。

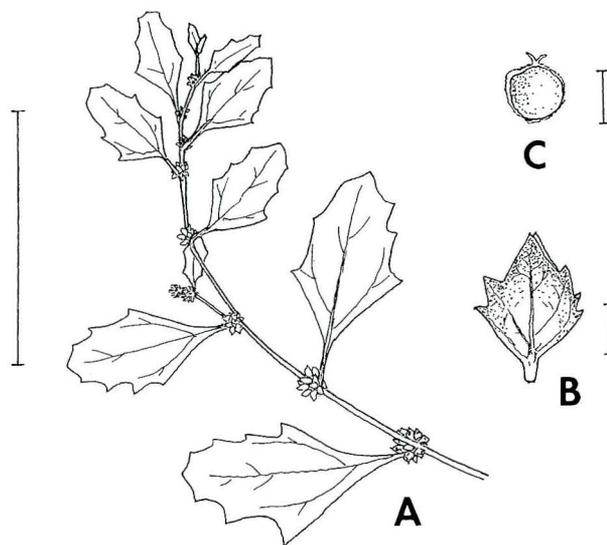


図4. ミナミハマアカザ *Atriplex suberecta* A: 植物体の上部スケール5cm, B: 果実, C: 果実を包む苞, B, Cのスケールは1mm.

茎は基部で枝を分け、ほぼ直立し、高さ40~80cm、上部にふけ状の毛がある他はほとんど無毛。葉は長楕円形または卵形、長さ1~5cm、幅0.5~2.5cm、先は鈍く、基部はしだいに狭くなって柄に流れ、縁には3~5対の不整歯牙があり、上面は無毛、下面にはふけ状の毛がある。花は葉腋に束生し、雄花と雌花を多数つける。雄花には5個の花被片があり、雄しべは5本で、葯は黄色。雌花は2枚の苞葉に包まれ、花後肥大して果実を包む。果実を包む苞葉は長さ2.5~3.5mm、幅2.0~2.5mmで、基部は短い柄になり、側面には突起がなく、先は不揃いに3~5裂し、裂片は先が尖り、緑色の網状脈が目立つ。果被は薄膜質。種子は直径1~1.5mmの円盤状で、黒褐色で光沢がある。

標本：神奈川県座間市小池東原 Jun. 21, 1998 松本雅人 KPM-NA0113412; 相模原市磯辺峰山 Jul. 11, 1998 松本雅人 相模原市博物館no.11000.

これら4種の帰化植物は、いずれも「神奈川県植物誌1988」(神奈川県植物誌調査会編, 1988) の補充調査及び刊行予定の「神奈川県植物誌2001」の調査で採集されたものである。標本を採集された、平川恵美子氏、小崎昭則氏、松本雅人氏に感謝申し上げます。また、同定に際しては国立科学博物館の標本を閲覧させていただいた。閲覧に際しては研究官の秋山忍氏にお世話になった。感謝申し上げます。

#### 文献

- Abrams, L., 1940. *Illustrated Flora of the Pacific States*, Vol. I. 538 pp. Stanford University Press, Stanford.  
 Abrams, L., 1951. *Illustrated Flora of the Pacific States*, Vol. III. 866 pp. Stanford University Press, Stanford.

- Britten, L., A. Brueckner, H. B. Christian, R. A. Dyer, M. D. Henderson, D. J. B. Killick, R. Story, I. C. Verdoorn & H. Wild, 1954. Newly Described Species. *Bothalia*, 6: 415-451.
- Britton, N. A. & H. A. Brown, 1970. Illustrated Flora of the Northern United States and Canada, 2<sup>ed</sup>. Vol. III. 637 pp. Dover Publications, New York.
- Clapham, A. R., T. G. Tutin & D. M. Moore, 1987. Flora of the British Isles, Third Edition. xxviii+688 pp. Cambridge University Press, Cambridge.
- Cronquist, A., A. H. Holmgren, N. H. Holmgren, J. L. Reveal & P. K. Holmgren, 1977. Intermountain Flora, Vascular Plants of the Intermountain West, U. S. A., Vol. 6. 584 pp. New York Botanical Garden, New York.
- Cronquist, A., A. H. Holmgren, N. H. Holmgren, J. L. Reveal & P. K. Holmgren, 1984. Intermountain Flora, Vascular Plants of the Intermountain West, U. S. A., Vol. 4. 446 pp. New York Botanical Garden, New York.
- Gleason, H. A. & A. Cronquist, 1991. Manual of Vascular Plants of Northeastern United States and Adjacent Canada, Second Edition. lxxv+910 pp. New York Botanical Garden, New York.
- Holmgren, N. H., 1998. Illustrated Companion to Gleason and Cronquist's Manual. 937 pp. New York Botanical Garden, New York.
- 勝山輝男, 1999. 神奈川県植物誌備忘録 (1). *Flora Kanagawa*, (48): 549-555.
- Kukenthal, G., 1909. Cyperaceae-Caricoideae. In Englar, A. eds. *Das Pflanzenreich*, Vol. 38. pp. 1-824.
- Mackenzie, K. K., 1931. Cyperaceae-Cariceae. in *North American Flora*, Vol. 18. Part 3. pp. 139-478. New York Botanical Garden, New York.
- Pignatti, S., 1982. Flora d'Italia, Vol. 2. 732 pp. Edagricole, Bologna.
- 田中徳久・勝山輝男・木場英久・高橋秀男, 1997. 神奈川県から近年報告された日本新産の帰化植物. 日本植物分類学会第27回大会プログラム・発表要旨集, p.69. 日本植物分類学会.
- Tutin, T. G., V. H. Heywood, N. A. Burges, D. H. Valentine, S. M. Walter & D. A. Webb (eds), 1972. *Flora Europaea*, Vol. 3. 374 pp. Cambridge University Press, London.
- Wagner, W. L., D. R. Herbst & S. H. Sohmer, 1990. Manual of the Flowering Plants of Hawaii, 2 vols. xviii+1854 pp. Bishop Meseum, Honolulu.

(神奈川県立生命の星・地球博物館)